

UWC NEWS

No.50

June 2024

発行：公益社団法人 ユナイテッド・ワールド・カレッジ日本協会



コロナ禍で延期となっていたUWC International Congressが今春開催。国際本部理事や職員、各校の校長・教員、国内委員会事務局職員や卒業生など450名以上が参加した。

◆ CONTENTS ◆

巻頭言	-----	3	
2024年度派遣生名簿	-----	4	UWC派遣生の推移、UWC卒業生の 進学先 ----- 23
2023年卒業生の声	-----	5	UWC日本協会会員企業、 最近の動向 ----- 24
2023年度 日本協会の活動	-----	19	
事務局報告	-----	20、21	
特別寄稿	-----	22	
～UWC卒業生便り～			
大坂 俊裕	(イギリス校 2005年卒)		
島戸 麻彩子	(インド校 2017年卒)		

UWC/UWC日本協会について

UWC(ユナイテッド・ワールド・カレッジ、本部：ロンドン)は、世界155カ国から選抜された高校生を受け入れ、教育を通じて国際感覚豊かな人材を養成することを目的とする国際的な民間教育機関です。現在までに、イギリス、カナダ、イタリア、アメリカ、香港、ノルウェー、オランダ、ドイツ、日本等、18の国・地域にカレッジ(高校)が開校されています。

わが国でも、UWCプロジェクトの趣旨に賛同して、経団連の協力のもと、1972年9月に「UWC国内委員会」が設立され、同委員会は、1975年2月に社団法人格を取得して「社団法人ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会」に改組されました。2012年4月1日には、公益社団法人に移行し、UWCのカレッジに派遣される奨学生の選考、奨学生に対する奨学金の支給、UWC事業の日本への紹介等の事業を行っています。

巻頭言

「失敗を恐れずに挑戦を」



UWC日本協会会長(アサヒグループホールディングス会長)

小路 明善(こうじ あきよし)

私はアサヒグループにおいて、社内における人材育成に長く関わってきました。その経験を通じて、人の成長が何よりも大事だと強く認識しています。

本格的なグローバル化の進展に伴い、地球規模の課題を俯瞰して考察できる広い視野を持った人材が今後ますます求められると思います。皆さんには、身の回りのことから視野を広げて、世界全体をしっかりと見つめ、咀嚼してほしいと思います。身の回りにおいて「普通」だと思われていることは、意外に普通ではないかもしれないからです。物事を自分で一旦考えて、思い込みの殻を破ってみることが大切です。自身の疑問・関心・興味をきっかけとする思考を大切に、独自の気づきと学びを得てください。

加えて、グローバルに活躍するには、世界の様々な事情を理解し、多様な価値観を持つ人と信頼関係を築く多文化理解力が欠かせません。この点、UWCのカレッジ生活は、世界各国から背景の異なる志の高い同級生が集まって寝食を共にするため、多様な価値観に触れ、たくさんの刺激を受ける最適な場かもしれません。

様々な価値観に接する際、ワクワクすることも多々あるでしょうが、これまでの「普通」が通用せず、どうしたらよいかわからないと感じる時もあることでしょう。しかしそのような困難は自分を成長させるチャンスですから、失敗を恐れずに挑戦してください。挑戦の結果、思うような結果が得られなかったとしても、経験から学び、次に活かす人は、将来一回り大きな成果を連れてきます。

その意味では、皆さんには、カレッジ生活を通じて単に多様な価値観を学ぶだけでなく、困難に対する挑戦を厭わないマインドを身に付けることも期待したいと思います。そうすれば、卒業した後も、変化の激しい時代に立ち向かうことができるでしょう。

また、日本協会では、高校生にUWCでの貴重な学びの経験を積んでいただけるよう、多くの企業からのご支援を得て、奨学金を設けています。企業の皆様には、前途有望な生徒が少しでも多くUWCで学べるチャンスを掴めるよう、ご支援をいただきたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 2024 年度UWC派遣生名簿 ◆

UWC Atlantic (イギリス校)

タナカ ハルカ 鷗友学園女子高等学校
 田中 遥
 フジタ リオ 成蹊高等学校
 藤田 莉央

UWC Robert Bosch College (ドイツ校)

カンベ アアヤ 京都市立西京高等学校
 神戸 愛彩

UWC ISAK Japan (日本校)

サイトウ マナカ Eastchester High School
 斎藤 真奈花

Pearson College UWC (カナダ校)

ハウカ エミリ 福井県立高志高等学校
 瑛美里

UWC Adriatic (イタリア校)

カネサカ マホ 東京学芸大学附属高等学校
 金坂 真歩
 サトウ シュン 東京都立西高等学校
 佐藤 駿

*個人情報につき、お取扱いには充分ご注意ください。

UWC-USA (アメリカ校)

カネコ ナミ 新潟市立高志中等教育学校
 金子 奈未

Li Po Chun UWC of Hong Kong (香港校)

オガタ ゆい 聖心女子学院高等科
 緒方
 マツオ ミユウ 東京学芸大学附属高等学校
 松尾 美結

一次選考受験人数 (人)

	国立	公立	私立	計
男子	1	12	10	23
女子	4	13	26	43
計	5	25	36	66

UWC Red Cross Nordic (ノルウェー校)

ゴミ ケンタ 聖光学院高等学校
 五味 健太

二次選考受験人数 (人)

	国立	公立	私立	計
男子	0	4	4	8
女子	2	9	14	25
計	2	13	18	33

UWC Mahindra College (インド校)

タカハシ レナ 神戸女学院高等学部
 高橋 玲奈

最終派遣人数 (人)

男子	2
女子	12
計	14

UWC Maastricht (オランダ校)

ナカツ まひろ 高山西高等学校
 中津
 ヤスジマ ココカ 神戸女学院高等学部
 安島 心香

UWC Atlantic College (イギリス校)

自分らしく

井戸ジェシカ果林

2年間のUWCでの生活を終え、私は深夜の空港でひとり、帰国の航空便を待ちながら、2年前に自身に向けて書いたメッセージをスマホで読み返していました。

日本での生活に窮屈さを感じていた私は、世界は広大であるから自分に共感してくれる人々と共に居場所を見つけられるのだろうと信じて留学を決意しました。そんな私は日々多様な文化や価値観が共有されるUWCでの生活を通じて、「多様性」という言葉の意味を誤解していたことに気づくのです。留学を終えた今、私は個人的に多様性とは個々人が異なり、彼らの個性を表現できる場が存在することであると解釈しています。すなわち、私にとってUWCとは異なることを強く感じさせられる環境でありました。

UWCに集う生徒たちは、自分とは異なる意見を求めます。そして、議論においては自分の価値観を尊重し、自分の言葉で述べようとします。食堂でどのような人と結婚したいかというたわいない会話をしていた際には、インド人の友人がカースト制度のもとで親に決められた結婚相手との将来に胸を躍らしていたことを知り、中国人の友人からは一人っ子政策下で結婚後にかかる制約があったことを教わりました。一方で、いざ「日本の少子化と認められていない同性婚の関係性。」などに対する自分の意見を求められると、私は何度も「考えを持っていない自分」を悔しく感じました。複雑に変化していく世界で何が誰にとって良いのか、そしてそれは正しいのかを考えさせられる日々でした。その結果、この2年間で次の日の夕食のためにしっかりと下調べすることが習慣となっていました。



仲間との1枚

留学を終えた今、2年前日本での生活に違和感や不満を感じ、英国へ渡った自分は、無自覚に育った環境から価値観や考え方を受け入れていたことに気付きました。そして同時に、偏った正義感(価値観)を持つ私だけでは世界中の人々を幸福にするのは難しいのだと痛感しました。だからこそ、まず周囲の人々の意見に耳を傾け、偶然学んだ知識や出会えた感情にひたむきに向き合う日常の姿勢が、社会の中で自分らしさ(特異性)を与え、そんな自分の意見を聞きたいという仲間が将来の自分の居場所を作ってくれるのだろうと信じています。

ちなみに、夕食時の団欒のために学んだ「多様性予測理論」の知識は、非常に興味深いものでした。多様性が正しい解に導くという理論が本当に正しいのであれば、UWC

で今後あなたたちが日々の中で議論し、共感し、共有することによって、少しずつ世界を正しい方向に導くのもかもしれませんね。

Why We Are Who We Are

杉田 さら

UWCに到着してからの数週間、「日本はなんて良い国なんだろう」と思うばかりだった。食べものやアニメが人気だけでなく、入学後すぐのUWC Day では浴衣や折り紙も大好評。日本人である喜びを日々感じていた。

だが、お互い打ち解けるほど、歴史的に日本がいかに多くの国に侵入、支配、破壊したかをその国々の友達から直に聞くことになった。台湾人の友達から大叔父が日本人に殺されたと教えられたり、中国でも反日感情はまだ残ると聞いたり、日の丸国旗を掲げるのが恥ずかしくさえ感じることもあった。

その一方で、絶対に誰も私自身を敵対視することはなかった。「Saraの根気は誰にも負けないものだと思う」と褒めてくれた友達に、それを得ることができた日本の学校での体験を話すとその日本文化に素直に感心してくれた。

私も友達の「出身国」を知るのではなく、その人の経験自体を聞かなければ、とハッとさせられた。親に「学校に行かずに働いてほしい」と言われてきたインド人の



寮の同級生たちと

の友達、イスラエル軍による銃撃戦を逃れたパレスチナ難民の友達、外交官の親と6カ国に住んだ友達の経験を聞くことは、伝統料理やダンスを共有することの何倍もの現実味のある異文化理解だった。

同じ国出身でも1人1人の人生ストーリーは全く異なり、その人の良さがどのように育まれたのかが納得できるたび、それまでにない深い繋がりが芽生える。同時に、私が大切にしている価値観や信念を与えてくれた日本を再び誇りに思えるようになった。

国籍の多様性が注目されがちな UWC だが、そこから生まれる「人生」そのものの多様性にこそ価値があると思う。出身地でも性別でも年齢でもなく、「What makes you who you are」を知りたい。UWCの友人たちから学んだこの考え方を持って日本国内でも世界中どこでも、人との出会いを大切にしたい。

* * * * *

大切な仲間

藤戸 優衣

Atlantic 校のキャンパスは、広大なお城の敷地の中にある。ハリーポッターの映画に出てきそうな荘厳な食堂、今にも動き出しそうな図書館の騎士像、まるで映画の世界に入り込んだようだった。そのような夢のような景色に加えて、UWCでの生活も私が夢見



Atlantic 校と虹

ていたものだった。異なる文化・生活背景で育った友達との共同生活、日本とは異なるスタイルの授業、毎週のように行われる学校行事など、毎日が新鮮であった。UWCで過ごした一瞬一瞬は私の一生の思い出となり、自分が大きく成長できた経験となった。

友達とは様々なイベントを楽しんだ。寄付金を募るための24時間マラソンや24時間社会課題解決プロジェクトに挑んだり、自国の文化を見せる学校イベントでは、折り紙教室を開催したり南中ソーランを披露したりした。UWCでの生活は、国際色豊かだからこそ得られた新しい気づきがたくさんあり、「人には様々な価値観があり、答えは一つではない」ということを教えてくれたように思う。

最後に、このような貴重な経験を支援して下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



親友たちと

Pearson College UWC (カナダ校)

人として成長すること

大森 智加

UWCでの2年間は、人間性を大きく成長させる。

キャンパスについてすぐ、私は圧倒された。初めての寮生活に、英語での会話。孤独になるのが怖いと、私は集団に紛れて楽しむふりをしながら、後2年も自分を演じ続けながら生活しなければならない現実に息が詰まった。

ふと気がついた。自分に正直になれないで、ありのままの自分を認めてくれる人なんてできるのか？友人の作り方という初歩的な部分でさえも、今までの自分の経験を疑い、納得のいくまで新しい自分を作り上げる日々が始まった。

ピアソンは完璧ではない。コミュニティの小ささが故に人間関係が飽和したり、気候や食生活が合わなかったりと苦労も多かった。常に降り注ぐストレスで白髪が生え放題となり、その量に驚かれた。それでも、一緒にチャイを飲んで歓談したり、芝生でお昼寝をしたり、海に突き落としあって大笑いしあったりできる友達が私を囲んでくれた。



フィールドトリップ

自分とことん向き合ったからこそ、自分が得たいと願っていた確固たる友情が出来上がった。



カヤックは生涯の宝物

最終日の朝まで、ほとんど休まず手紙を書き続けた。思い出話を書こうとしたら涙が止まらなかった。一枚の紙では到底収まり切れないほど、自分の持つ語彙では表現できないほどの愛と感謝を伝えたかった。二度と戻らない、かけがえのない日々。後悔なく走り抜けた。

環境を変えるということは、生まれ変わることだ。過去に囚われず、まっさらな自分になる勇気を持てるか、そして自我をどのように構築するか、一人一人の意志に委ねられる。私も随分と逞しい顔つきになった。UWCに行った自分が、私は大好きだ。

さて、次はどこに行こう？

* * * * *

ひとつひとつ

松本 優月



スキーキャンプで見た日の出

世界80か国から集まる生徒との交流を経て世界がもっと身近に感じられるかと未熟に思いきや、私が思い描いていた世界は、その解像度を増しながら、さらにさらに広がっていった。いつの間にかロケットの外から見ていた青く丸い地球は姿を消し、代わりに見えてきた景色は清潔な水も病院もないネパールの山奥で暮らす家族や常に爆破の危険と隣り合わせで生活を送るシリアの一家、生まれ育った環境が徐々に侵略・支配されていく過程を経験する香港の友達だった。

様々な地域や社会の情勢について詳しくなれるかと思いきや、それぞれの話のごくごく一部の詳細に出会うたびに、物事の複雑さと難解さに気づき、自分の無知を思い知らされることの繰り返しだった。

UWCの2年間で、仲間の温かさや人間性、あふれ出る感情に出会う中で、ひとりひとり、そしてひとつひとつの物事と丁寧にそして親身に向き合うことの大切さを教えてもらった。そしてそのひとつひとつが私自身の一部となり、思考や感情、そして人生そのものを深く奥行きのあるものにしてくれた。



2年目のルームメイト

UWC Adriatic (イタリア校)

日本人というレンズを通して見られる自分

佐々木 美瑠



イラン人のルームメイト
とドレスアップ

アニメを見たことがない、日焼けしている、服装が派手。いわゆる日本人のステレオタイプとは正反対と言っても過言ではない私。自己紹介の段階で私が日本人だということを認めてくれない子や、フェイクジャパニーズだなんてあだ名をつけられることも日常茶飯事、挙げ句の果てには校内の“Least national representation (最も母国のイメージとかけ離れている人)”に選ばれてしまった。

自分は何をもって日本人なのか、異文化交流を重んじるUWCで自分は日本人としての役割を果たしているのか疑問を抱いた。もちろんイベントごとには着物を着て日本の歴史文化の説明をするが、それに加えて周りの期待する「日本人でいること」への義務感も感じていた。

自分らしくいることを窮屈に思い始めていた私を救ってくれたのは、イラン人のルームメイトのふとした一言だった。「ステレオタイプに全く当てはまらない子を見て、私たちは一つの国に多彩なアイデンティティが存在することを実感でき、固定概念にとらわれることなく国籍と本人の関係性を観察することができる。あと気づいていないかもしれないけど、私は美瑠の細かな対応を見ていると、それはあなたにとって日本という国が母国として存在しているからなんだろうなって勝手に考えているよ。」

彼女の言葉は私に自分がありのままにいて周囲に提供できる新たな視点、そして自分の見た目や趣味だけでなく、振る舞いにも日本という国がバックグラウンドとして存在しているということを思い出させた。今後も続く海外生活だが、人と直接的に関わって異文化交流する際には一般化された国のイメージを相手に押し付けるのではなく、その人を切り口としてしか知ることのできない彼らの母国の存在を探究できたらと思う。



peace one day

* * * * *

長靴形のイタリア

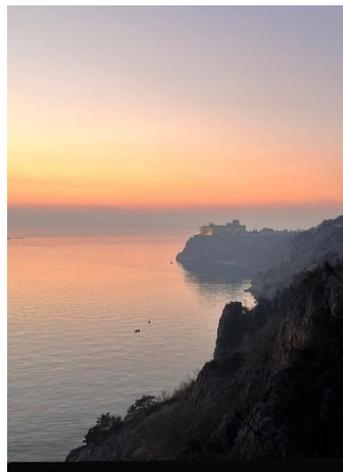
伊藤 華怜

長靴形のイタリアを注目してはいけない。長靴より手前側の隅に位置する Duino 村は、えも言われぬ美しさだった。しかし、そこで私は物憂げな雰囲気にも包まれていた。

Duino 城のとなりで共同生活をしたが辛かった。今日の自分をどのように保ち、どこで眠ろうか……。出るわけもない答えを追われるように考えていた。それは自分の弱さと立ち向かっては崩れ落ちる自分の強さだった。

人々との出会いと別れ、期待と失望が交錯する中で、愛と尊敬が溢れては欠乏した。その中にあっても gelato の甘美な味は常に楽しみであり、食堂で出される amatriciana は優しい味がした。

このような心身が触れては削れていく過程は、自分自身になるための必然な一環であったと感じる。私はこれまで神や家族といった安定した存在の中で受け身な生き方をしてきた。しかし、混沌と不合理を自ら処理していく中で、私の中には模範的な正しさとは異なる、荒々しく醜い自分の本質と出会った。そして、そのような私を「大切だ」と囁く人々がいた。削り削られた我が身の先に暗示された道があった。そこはますます確固たる自己像を形成し、他者をより本質的に愛すための道であった。



リルケの小道から見る Duino 城



ポルトで食べるジェラート

振り返ると、過ごした2年間で1つの長い夢だった。幻想的なほど Duino 村は美しく苦しかった。私は未熟なまま、燃え尽きるように生きた。

私はこの地が私なりに大好きだった。

最後に、この素晴らしい巡り合わせに深い感謝を含め報告と致す。

UWC-USA (アメリカ校)

Lost and Found

岩本 花渚

例えるならローラーコースター。上昇して下降して、ゆっくりになったら急旋回。とびきり長くて、スリリングなやつ。

UWCでの生活は下降だけだったかもしれない。

歴史……Perspective という単語の意味がわからず、羞恥心でクラスに行けなくなった。国際政治……ディスカッションについていず、トイレに逃げ込んだ。大量の課題や試験におわれ、寝られない日々が続いた。日本人としてのマイノリティーを感じ、疎外感に苛まれた。私が思い描いていたUWCというユートピアが、バラバラに崩れ落ちていった。



カフェ

辛いと思っていた。でも、私の隣で静かに寄り添ってくれる友達を見つけた。
 苦しいと思っていた。でも気がついたらディスカッションの中心に私がいた。
 恥ずかしいと思っていた。でもステージの上で、私は拍手喝采を浴びていた。
 泣きじゃくって、でも足掻いて、戦って、そうして数えきれないほどの宝物のような思い出たちを手に入れた。

私は、UWCに来て良かったと心から思う。

でも、ローラーコースターは上昇する。

友達と朝までくだらない話をして、次の日にはお揃いの隈をこさえた。グランドキャニオンに差し込み始めた日を見て、自然の美しさを実感した。ずっと憧れていたミュージカルに挑戦して、作品をみんなで完成させた。上昇するような思いでも確かに手に入れていた。



ウィルダネス

* * * * *

活出会いと感謝

北井 心子



雪山トリップにて

振り返ると、周りの人に助けられて今の自分がいるのだとひしひしと感じる。

2年前アルバカーキ空港に降り立った時、期待と希望で胸がいっぱいだった。だが、現実には理想と大きくかけ離れていた。すぐに言語の壁にぶつかり、UWCという環境を活かせていない自分がもどかしく、不安だった。

しかし、拙い英語でも理解しようとしてくれる友達たち、私の進路選択に大きな影響を与えた経済学の先生や、親身に相談に乗ってくれた English B の先生、日本人の同期に助けられ、段々とUWCでの生活が楽しくなっていた。同時に、自己と向き合ったり、新しいことに挑戦したりする余裕も増えた。

特に2年生になってからは、カルチャーショーケースのオーガナイザーや、バックパッキングのリーダー、ダンスのパフォーマンスなど、興味のあることには何でも活発的に取り組み、毎日が充実していた。その過程で、予期せぬことやトラブルが起こることもあったが、周りとの協力しながら一つ一つ乗り越えていった。その度にUWCというコミュニティの優しさや暖かさを実感することが出来た。

UWCでの出会いや経験を大切にしながら、感謝を忘れず、今後の人生を歩んでいきたい。



ダンスパフォーマンスの仲間と

* * * * *

引き寄せられた「運」

湯川惺麻

「アメリカ楽しかったでしょ？」

2年間のUWC生活を終え地元に戻ったこの夏、友が私に聞いてきた。彼は2年前、UWCに行く前の私を知っていた。だからこそ、希望に満ち溢れている今の私を見て、断定した質問をしたのだろう。



1年サッカー大会にて

だから今の私に怖いものはない。

2年前、16歳の私が下した大きな決断がこのように実を結ぶのであれば、これから私に降りかかる試練も必ず乗り越えられる。

私がいかなる選択をしようとも、何かを成し遂げようとする信念さえあれば物事は必ず良い方向に向かうのである。運は自分で引き寄せるのだ。

私が素晴らしい環境に巡り会えた「運」も、結局は自分で作り上げたものだと思っている。

最後に私を支えてくれた家族、友、先生方、そして私にこの機会を与えてくださった経団連の皆様、本当にありがとうございました。

Li Po Chun UWC of Hong Kong (香港校)

あなたはどんな人でありたいですか？

橋爪 今日子

今自分が置かれている閉ざされた環境から脱してみたい——。そんな単純な気持ちでUWCに進学した私でしたが、卒業した今振り返るとそれは無謀な挑戦だったのかもしれない。

人とのコミュニケーションはその人の人生の豊かさを築くと思います。しかし、UWCでの多様な人々との関わりでは常にさまざまな問題と直面します。日常的な小さな習慣や価値観の違いが自分と周りの人との間に大きな壁をつくりました。その違いを乗り越えて仲間と共に卒業した今、私はその多様性との出会いを通して自分の個性を見つめ直しています。



卒業ディナーにて

時には、周りとあまりにも異なる自分の在り方は自分がこれまで置かれてきた環境に全て左右されていると思いました。私のもつ価値観は自らの意思で観ているのではなく、私の背景が私に観せる幻覚なのではと考えたこともありました。UWCでの経験は、そんな私にさまざまな人の考えや個性を知る機会を与えてくれました。私は人のさまざまな価値観やその信念に基づいた生き方を知って、その多様性の中で自分はどんな人なのかを自らの意思で選択するようになりました。自分の置かれている環境に流されず自分らしさを意識的に表現することは、UWCでの多様性に触れて初めてできたことです。

最後に、UWCでの貴重な学びを支えてくださった全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。

* * * * *

ギター模様のアリス

羽田野明日香



学校近くのカイトビーチ

好きな人ができた。しかも複数。

それを友人ができた、という人もいるかもしれない。しかし、思い出すたびに心がふわっとする、それを私は好きと呼ぶ。こんな風に、人だけが残って思い出が美化されていく中で、苦いことに向き合うのが怖かったのかもしれない。私は、卒業後2か月間、アリスと名付けた日記を開かなかった。

アリスは知っている。友達と呼べる友達ができるまでの1年半、人間関係にいらいらして走ってばかりいたら、靴に穴が開いたこと。原爆は喜ばしいと習った、とおそろおそろ話してくれたマレーシア系の人の言葉で、戦時の加害者の日本人、というラベルを背負っているのだと気づいたこと。ベタベタになってしまった唐揚げ、もらった誕生日カード。



友人とのハイキング

最後の5か月間は、決壊が切れたようにメンタルの調子が落ち込んだ記憶が大半を占めている。けれど、制御不可能のサイレンが鳴り響く中で垣間見えた、ひとの暖かさを思い出すたび、私もそのような存在になりたい、と思う。

卒業後、新しいノートを買った。香港時代を知るアリスは、箱の中で眠っている。体内に蓄積された 730の夜に毎日、一枚のノートの頁が加わっていく。今と未来を、紙一枚分、繋いでいく。

UWC Red Cross Nordic (ノルウェー校)

自己の再構築

佐井 ひなた

自分の外の世界に対して働きかけたい、もっと広い世界を見たい、と飛び込んだUWCであったが、実際は良い意味でも悪い意味でも自分自身と向き合い続けた2年間であった。

今思えば、日本では、自分の容姿や学歴などが無条件に周りに評価されることが多く、それが私の自己肯定感につながっていたように思う。

それが、UWCに入学して、容姿や学歴といった今まで評価されてきたことが評価されなくなり、裸の私自身で勝負しなければならない環境に放り込まれたわけである。



Denmark House 2022



Dance Show 2022

初めのうちは、そうした周りからの評価の欠如や、英語力が周りと比べ劣っていたこと、またそのためになかなか友人の輪に馴染めなかったことによる劣等感から、自信を喪失し、そのせいで、さらに友人との間に壁を作ってしまったのをよく覚えている。

一方で、素の自分と向き合うことは、多くの気づきをもたらしてくれた。周りからの評価にすぎたのではなく、自分が自身を評価してられるように意識するようになり、今まで”何をすることが評価されることか”で物事を判断していたのが、”どうすることが自分にあって幸せか”で判断しようとするようになったと感じる。

この経験はUWCという環境でなければ得られなかったと思います。

このような機会をいただけたことを感謝します。

UWC Maastricht (オランダ校)

小さな世界

松澤 杏奈

留学してから1年、初めて日本へ一時帰国するアムステルダムからの飛行機での事だ。私は、オランダに初めて渡った時のように、自分の飛行機がどこを飛んでいるのかをみるために飛行機のテレビで世界地図を出してみた。ウズベキスタン。留学してから1年、初めて日本へ一時帰国するアムステルダムからの飛行機での事だ。

私は、オランダに初めて渡った時のように、自分の飛行機がどこを飛んでいるのかをみるために飛行機のテレビで世界地図を出してみた。ウズベキスタン。〇〇が住んでいる国だ。



ミュージカル初演後にディレクターチームの皆と

フライトの軌跡のある国名をみるごとに、そして世界地図のどこに目を向けても、それぞれの国・地域出身の友人の顔が浮かぶ。感動の衝撃と同時に喜びとなつかしさの笑みをかみ締めた。

1年前は国名も知らなかった国々に、今は友人と呼べる人たちがいて、そして彼らと1年間という時間を共にしたこと。

そう思うと、『世界中に友達を作る』という自分の長年の夢が実現して、すでに彼らに懐かしさすら感じ、表しようのない喜びと、安らぎにも似た誇りに包まれたのを覚えている。

決して楽しいだけではない2年間だったが、寮長や助成金を得て行ったコミュニティ活動等を通して仲間と協力しながら困難を乗り越えたことで、自分や自国について大い考え知ることができた。

それらを通して国際人として成長することができ、自信と喜びで満たされていくのを感じている。

このような機会を与えてくださった全ての方々に感謝申し上げますとともに、これからも未知の世界に挑戦し続けて自分の可能性を磨き、得た学びを社会に役立てる人になれるよう、精進して参ります。



家族のような存在の寮の仲間と

* * * * *

人生に一度もない経験

竹並 千早

「大学生になってからではだめなのか。」

もっと広い世界をこの目で見たい、自分に足りない何かを吸収したい、と思い、海外留学を志願した時の両親の言葉だ。

しかし、私の思いは消えることなく、強くなっていく一方で、最終的には彼らも UWC 留学を全面的に後押ししてくれた。

UWCでの2年間を終えた今、両親から投げかけられたこの言葉を自分に問うてみる。あえて高校2年生という、日本では大学受験にいよいよ本腰を入れる時期に、UWCという環境で学ぶ意味とは何か。



アウトドアプログラムの仲間たち

自分が何者なのかぼんやりとしかわからなかった中学・高校時代。そんな私が2年間、濃い人間関係、多様な文化・考え方の中でもまれ、貴重な経験を通して自分について知る機会が多くなり、自分のありのままを表現できるようになった。

留学中の考え方、内面の変化も、自分を知るうえで大切な要素であった。16～18歳という若さでこのような豊かな学びを得られたからこそ、自分という存在に確信を持つことができ、想像以上にこれからの人生の可能性を広げることができた。

23年卒派遣生のUWCでの生活は終わりを告げたが、今、私たちの可能性は無尽大だ。



いつもそばで支え合った友達と散歩

具体的なUWC体験というよりは、自己中心的な文章になってしまったが、自分を知った今だからこそ、自分なりに社会に貢献できる方法が見つかるかと信じている。

最後に、このような成長・学びの機会を与えてくださったUWC日本協会、並びに経団連の皆様から心から感謝申し上げます。

UWC Robert Bosch College (ドイツ校)

未完成の達成、不燃焼感の躍進

三崎 もか

UWCでの2年間は、今まで経験したことのないほどの挫折、もがいても何も変わらなかった日々の連続、努力の方向も分からず労力と結果が比例しない成績、それでも迫ってくる大学という次の場所を見つけなければならない焦燥感、まだやっと地に足が付き始めたころだったのに。

でも、そんな未完成な自分でもいいと思えた出会いがありました。

2年目にルームメイトになった子は私の1年目と同じような不安を抱えていました。どんなにシンプルで



ひつじの爪切り

当たり前のことでも私にとっては大きな問題で、ただの自己満足と思いながらも、ひたすらその子に自分が1年生の時に必要としていたことを尽くしました。卒業式の後の夜、彼女の口から聞いた初めての率直な思いは入学後感じていた不安と私への愛のこもった言葉でした。

その瞬間すべてのしんどかった日々が報われた気がしました。

つらい経験をしていなければきっと表面上でしか彼女の不安も受け止められなかったと思います。どんなにつらい時期でも乗り



RBC 銀世界

越えれば、いつか予想もしない形でその時間が無駄じゃなかったと思える時が来ると思います。

「些細なことがこれまでの全ての苦悩を肯定してくれる機会になるかもしれない。」

正直、自分の持っているものすべてを体現できた2年間とはなりませんでしたが、RBC で培った乗り越える術を、深い友情を糧に、これから躍進していきたいと思えます。

2年間を支えてくださった皆さんに心からお礼を申し上げます。

UWC ISAK.Japan (日本校)

多様性の意味

山田 ゆうき

「留学したい」が UWC 受験の初めの志望動機だった私は、日本校への派遣が決定した時、正直少し落ち込んだ。それでも、「2年間で一番成長してやる」と意気込んでいた。



アブダビにて

甘かった。海外経験ゼロ、なのに自尊心と羞恥心だけは一人前だった私は、言語の壁と自身のプライドで押しつぶされそうになった。

また周囲を見渡すと、今まで大切にしてきた価値観や行動基準が、そこでは取るに足りないものとして扱われているように感じ、悩み、苦しんだ。周囲と打ち解けようとするあまりそんな他者との違いに敏感になり、だからこそ自分を「日本人」など何かの枠にはめなければ、という観念に囚われたりもした。

状況が変わり始めたのは、2年目に入ってからだった。CAS やクラブ活動への貢献が評価されたことを通して、自分の存在意義に自信が持てるようになった。自分は「日本人」の中でも、他の人と違うかもしれない。でも、それがチームに新たな多様性をもたらし、コミュニティの形成に貢献する。国籍の違いだけが多様性ではなく、「山田ゆうき」であればいい。そう思えた時、初めてちゃんと息を吸えた気がした。

これからも「山田ゆうき」であり続けながら、社会に貢献できる道を、自分らしく探していきたい。最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった経団連の皆様、日本協会の皆様、そして、支えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。



谷川岳にて

◆2023年度 UWC 日本協会の活動◆

2023 年

【5月】

19日：第30回理事会

28日：2023年度派遣生と保護者のためのオンライン・オリエンテーション

【6月】

12日：第12回通常総会

2023年度派遣奨学生激励会、カレッジ別オリエンテーション



【7月】

7日～9日：卒業生会主催 2023年度派遣生オリエンテーション・キャンプ

【10月】

1日：2024年度派遣奨学生募集オンライン説明会（213世帯参加）

25日：第31回臨時理事会

【12月】

10日：2024年度派遣生一次選考（筆記）＜66名受験＞（於 東京、大阪）

2024 年

【2月】

13日：2024年度派遣生二次選考（面接・グループディスカッション）

＜33名受験＞

27～28日：UWC Asia-Pacific National Committees Regional Meeting
（於：タイ・プーケット）への参加

29日～3月2日：UWC International Congress 2024（UWCタイ校/
タイ・プーケット）への参加

【3月】

13日：第32回理事会

UWC アジア太平洋地域会議 報告

2024年2月27日～28日（於：タイ・プーケット）

UWC日本協会前事務局長 益子 千香

UWCアジア太平洋地域の29の国内委員会代表、UWC13校の入学担当者、UWC国際本部担当者等が参加し、国内委員会のキャパシティビルディングや生徒への必要支援額算定等、国内委員会が直面する課題や対応策について意見交換を行うとともに、UWCタイ校を見学した。

各国内委員会の歴史や置かれている環境は様々であるが、各国内委員会の課題とベストプラクティス、UWC国際本部に求められる役割等を参加者間で共有することにより、「UWC Movement」をグローバルかつ永続的に推進していくという、国際本部の強い意思が感じられた。

最終日のプログラムでは、Faith Abiodun UWC国際本部 Executive Director ならびに Musimbi Kanyoro UWC国際理事長との対話の場が設けられ、出席者からの質問に答える形で、Abiodun氏から以下の発言があった。

(1) UWC応募者の男女比率

UWC応募者の男女比率は、国・地域によって異なるが、大まかに男:女=4:6であり、女子比率が高い。これは解決すべき問題であるのか、それともこのままでもよいのか。各国内委員会には、応募者と推薦者のデータを共有してもらいたい。国際本部として体系的に対処したい。



(2) UWCの成功評価指標

UWCの成功評価指標は、生徒の出身国の多様性、経済的バックグラウンドの多様性、卒業資格取得生徒数等が含まれるが、それらに止まらず、UWCの使命の本質である平和の実現等もある。

UWC International Congress（全体会議） 報告

2024年2月29日～3月2日（於 UWCタイ校/ タイ・プーケット）

池田 千湖（アメリカ校 1993年卒）

コロナ禍で2022年より延期となっていたCongressが、今春、「Education as a Force」をメインテーマに、タイ校にて対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。日本協会の事務局業務をお手伝いしていることから、日本協会事務局代理として出席した。

Pre-Congress、Congressをとおして、参加者はサブ・グループ（「CURRICULUM,

TEACHING AND LEARNING」「ADMISSIONS(日本協会参加)」「WELLBEING」FINANCIAL SUSTAINABILITY」「EDUCATIONAL LEADERSHIP & PARTNERSHIPS)」に属する形で教育の未来について議論を深め、現代のニーズに合わせたUWCの教育モデルの再調整について再考した。



参加者からは、最終試験の比重が高い現行IBカリキュラムの見直しに多くの関心が寄せられた。国際本部がIB機構と共にカリキュラムの再構築に着手し、研究過程により重きが置かれた新プログラム「The Systems Transformation Pathway」の試験運用を、世界に先駆けて、イギリス校とシンガポール校で開始したことは、好意的に受けとめられていた。



WELLBEING が初めて議題として取り上げられたことにも大きな注目が集まった。各カレッジが抱える課題が改めて共有された他、多数の登壇者が生徒のSNSの過度な利用に警鐘を鳴らし、UWCの教育と生活に及ぼす影響について懸念を示した。

Congress での議論内容を受け、国際本部は5月に上記各テーマにおける今後の方向性を下記のとおり発表した。

- ① 革新的な教育法の採用による教育と学習の未来形成
- ② Admissions における意図的な多様性と包摂性の維持
- ③ 健康促進と協力的な環境の構築による総合的な Well-being の重視
- ④ パートナーシップを活用しての長期的な財務持続性の確保
- ⑤ パートナーシップ拡大による世界規模のコラボレーション強化

なお、卒業生の島田和夫さん（カナダ校・1993年卒）が一部プログラムに自主的に参加された。UWCの現状や方向性を把握いただけたことは、日本協会と卒業生会が今後も協働していくうえで大変意義深く、感謝したい。

UWC International Congress (全体会議)

6年に一度開催されるUWCの組織としての運営・教育方針を話し合う国際会議。世界に18あるカレッジが持ちまわりで開催し、基調講演、パネル・ディスカッション、グループ・ディスカッション、ワークショップなどが行われる。参加者は、国際本部理事・評議員・職員、各カレッジ校長・教員・職員、国内委員会（NC）事務局職員、卒業生、支援者など。なお、参加者はCongress開催半年前より、「Pre-Congress Sessions」と称されたオンライン・セッション（基調講演、パネル・ディスカッション、グループ・ディスカッション）が月2回程度開催され、Congressのメインテーマをさらに掘り下げたサブテーマ別のグループにて議論を深める。

➤ 「相手の立場にたって考えようと思うこと」 大坂 俊裕（イギリス校 2005 年卒）

米国 Wesleyan 大学卒業後、2010 年に三菱地所入社。2017 年に Harvard Business School 社費留学、2019 年から三菱地所子会社 TA Realty へ出向しボストン駐在、2023 年 7 月から同様に Europa Capital へ出向しロンドン駐在。



出向先の経営者と共に

「相手の立場にたって考えることができるようになった」と言えば、友人や家族からは全否定されるだろうが、職場では私の第一優先事項である。そして、この原体験は、もちろんUWC時代に遡る。

“I don't like Japanese people. I don't understand why you don't apologize to China.”

これは、中国人同級生が初対面の私に投げかけた言葉だ。UWCの中でもトップクラスのインパクトを持つ経験である。詳細は割愛するが、このような経験もあって、大学では中国語を勉強し、北京留学もした。少しでも相手の立場に立ってみたいからだ。

縁あって、2019 年以降、現地子会社に株主の立場で出向しているが、金融業界でのしごを削ってきた年上現地経営者に物申さなければならないことも多い。そんな時に考えるのは彼／彼女からはどう見えているか、だ。

引き続き失敗の連続だが、この気持ちがあるからこそ前向きに進められていると思っている。改めて、UWCの日々に感謝したい。

➤ 「UWCで身に付いた粘り強さと冒険心」 島戸 麻彩子（インド校 2017 年卒）

UWC 卒業後、江副記念リクルート財団学術部門奨学生として英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン医学部に進学し、感染症学・免疫学の理学士号と英国医師免許を取得。現在はイングランドにて NHS 初期研修医として勤務。

イギリスの病院で人種・宗教・文化・価値観が多様な患者さんと日々向き合い、医療チームの一員として働く中で、私にとって初めての海外生活であったUWCでの 2 年間で生きていくと日々実感しています。異なるバックグラウンドを持つ同世代と意見を何度もすり合わせながら寝食を共にしたり、ホームステイや課外活動を通してインドの各地域の文化に浸かったりするなかで、自分にとっての「当たり前」を取り払って一から目の前の相手と粘り強く向き合う姿勢や、コンフォートゾーンの外へ飛び出す挑戦を楽しむ姿勢が身に付いたように思います。

加えて、大学入試とIBの勉強との両立を通して培ったタイムマネジメント能力を生かして、医学部時代に約 25 か国のヘルスケアに携わる若者を巻き込みながら国際保健に関する団体を発足し、現在も交流を続けています。

UWC卒業生が多く集まるロンドンで彼らの幅広い進路や考え方から今も刺激を受け続けながら、不確実性が増す世界における私らしい貢献の道を模索しています。



内分泌代謝内科の研修と共にした同期と

◆UWC派遣生の推移◆

(1972年度～2024年度)

2024年6月現在

カレッジ 年度	イギリス		カナダ		シンガポール		イタリ		アメリカ		香港		ルウェー		インド		オランダ		コスタリカ		ドイツ		アルメニア		中国		日本		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
1972～2014	88	120	44	73	13	19	16	35	22	33	11	9	4	6	4	17		3	1			1								519
15	1	3	1	1			1	1	2	1	-	1	-	1	1	1	-	1	1	-	-	1	1	-					19	
16	2	2	-	2			1	1	1	1	-	2	-	1	1	1	-	2	1	2	1	-	1	1	1	-			24	
17	3	1	-	2			1	1	-	2	1	2	-	1	3	-	-	1	3	1	-	1	1	1	1	1	1		27	
18	2	1	1	1			1	1	1	2	1	1			-	2	-	1	3	-	-	1	1	2	1	1		24		
19	-	3	1	1			-	2	1	1	-	2	-	1			1	1	-	2	-	1	1	1	-	2		21		
20	2	2	1	1			1	1	1	2	1	1	-	1			1	-			1	-	1	2		-	1	20		
21	-	3	-	2			-	2	1	2	-	2	-	1			-	2			-	1				-	1	17		
22	1	3	1	1			-	2	1	1	-	2	-	1			1	1			1	-					1	-	17	
23	1	2	-	2			1	1	-	2	-	1	-	1			-	2			1	-				-	1	15		
24	-	2	-	1			1	1	-	1	-	2	1	-	-	1	-	2			-	1				-	1			
合計	100	142	49	87	13	19	23	48	30	48	14	25	5	14	9	22	3	16	9	5	4	7	6	7	3	4	1	4	717	

◆UWC卒業生の進学実績◆

(2014年～2021年にUWCを卒業した派遣生の進路のうち、主なもの)

【海外大学】

●アメリカ

Amherst College、Bates College、Brown University、Columbia University、Colby College、College of the Atlantic、Colorado College、Columbia University、Earlham College、Grinnell College、Johns Hopkins University、Kalamazoo College、Lake Forest College、Leiden University、Lewis & Clark College、Macalester College、Methodist University、Middlebury College、Minerva Schools at KGI、New York University、Northwestern University、Princeton University、San Diego State University、Smith College、St. John's College、St. Lawrence University、St. Olaf College、The University of Oklahoma、UC San Diego、University of Pennsylvania、University of Rochester、Wesleyan University、Williams College、Yale University

●イギリス

Aberystwyth University、Imperial College London(ICL)、University of Cambridge、University College London(UCL)、Wesleyan University

●その他

The University of New South Wales(オーストラリア)、Quest University Canada(カナダ)、University of Toronto(カナダ)、University of British Columbia(カナダ)、Sciences Po Le Havre Campus(フランス)、ESCP Business School(フランス)、Amsterdam University College(オランダ)、Delft University of Technology(オランダ)、University of Amsterdam(オランダ)、Bard College Berlin(ドイツ)、Catholic University of Leuven (KU Leuven)(ベルギー)、Politechnika Wroclawska(ポーランド)、Yale NUS(シンガポール)、IE University(スペイン)、Yale NUS(アラブ首長国連邦)

【国内大学】

東北大学、東京大学、東京医科歯科大学、筑波大学、慶應義塾大学、国際基督教大学、上智大学、早稲田大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、

公益社団法人 ユナイテッド・ワールド・カレッジ日本協会

会 員 企 業

2024年 6月19日現在

(敬称略・順不同)

アサヒグループホールディングス	積水化学工業	富国生命保険
旭化成	ソニーグループ	富士通
朝日生命保険	第一三共	富士電機
アステラス製薬	第一生命ホールディングス	古河機械金属
ADEKA	大和証券グループ本社	古河電気工業
安藤・間	中外製薬	丸紅
伊藤忠商事	東京海上日動火災保険	みずほフィナンシャルグループ
ANAホールディングス	東レ	三井住友海上火災保険
ENEOS ホールディングス	日清製粉グループ本社	三井住友銀行
王子ホールディングス	NIPPON EXPRESSホールディングス	三井物産
キッコーマン	日本軽金属ホールディングス	三井不動産
サントリーホールディングス	日本製鉄	三菱ケミカルグループ
島津製作所	日本生命保険	三菱重工業
清水建設	日本ゼオン	三菱商事
住友化学	日本電信電話	三菱電機
住友商事	野村ホールディングス	三菱UFJフィナンシャル・グループ
住友生命保険	東日本旅客鉄道	横浜ゴム
	日立製作所	

【52社】

《個人会員》 佐藤 輝英(ビーネクスト キャピタル マネジメント ファウンダー・CEO /UWC卒業生)

【支援企業・団体(特別寄付)】 ゴールドマン・サックス証券 / UWC卒業生会

最近の動向

今年度インド校への派遣が6年ぶりに再開することとなりました。コロナ禍で派遣がストップしていたカレッジとも調整を試みており、今後、新しいカレッジへの派遣についても検討しています。世界各地のUWC校で学ぶことを考えている生徒の皆さん、乞うご期待、挑戦を待っています。

日本協会では、一人でも多くの日本人高校生がUWCにおける「人生を変える体験」ができるよう、ご支援いただける企業会員や個人の拡大に向けて積極的に活動してまいります。

公益社団法人ユナイテッド・ワールド・カレッジ日本協会

会 長：小 路 明 善 (アサヒグループホールディングス会長)

専務理事：長谷川 知 子 (経団連 常務理事)

事務局長：酒 向 里 枝 (経団連 教育・自然保護本部長)

事務局 : 〒100-8188 東京都千代田区大手町1-3-2

一般社団法人日本経済団体連合会 事務局内

電話：(03)6741-0163 FAX：(03)6741-0351

E-mail: uwc@keidanren.or.jp

Website: <http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/UWC/index.html>